

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3193970号  
(U3193970)

(45) 発行日 平成26年10月30日(2014. 10. 30)

(24) 登録日 平成26年10月8日(2014. 10. 8)

(51) Int. Cl. F 1  
**A 6 1 H 7/00 (2006. 01)**  
 A 6 1 H 7/00 3 0 0 A  
 A 6 1 H 7/00 3 0 0 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2014-4358 (U2014-4358)  
 (22) 出願日 平成26年8月17日(2014. 8. 17)

(73) 実用新案権者 514209124  
 高田 セイ子  
 山梨県甲府市長松寺町4-10  
 (74) 代理人 100080654  
 弁理士 土橋 博司  
 (72) 考案者 高田 セイ子  
 山梨県甲府市長松寺町4-10

(54) 【考案の名称】 健康器具

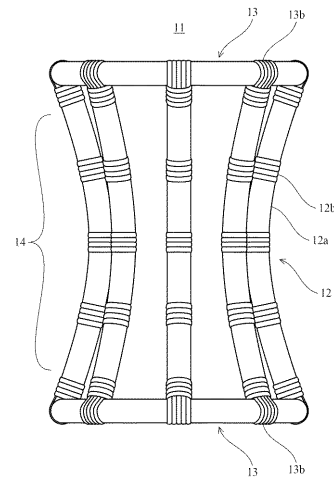
(57) 【要約】 (修正有)

【課題】肩コリや背筋痛や腰痛、臀部のこりなどを指圧ではなく、他の押圧手段で簡単かつ確実に直すことができる健康器具を提供する。

【解決手段】健康器具11本体を複数本の脚部12aからなる胴部12と、胴部の両端に取り付けられたほぼ同径の円板13とで構成し、各円板には把持部を設けるとともに、胴部の外形を中心がくびれた鼓状としてあり、両側の円板で床を転がすようにして、くびれ部14上に肩や背中、腰、臀部を載せた状態で仰向けに寝ころがって使用することにより、肩や背中、腰、臀部がくびれ部で押圧され、かつ把持部を手で持つことによってくびれ部から脱落しないようにした。胴部は、籐、竹、プラスチックから選ばれ、円板は、竹を編んで形成され、所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部12b、13bが形成されているのが好ましい。

【選択図】 図2

【図2】



## 【実用新案登録請求の範囲】

## 【請求項 1】

健康器具本体を複数本の脚部からなる胴部と、該胴部の両端に取り付けられたほぼ同径の円板とで構成し、各円板には把持部を設けるとともに、胴部の外形を中心がくびれた鼓状としてあり、

前記両側の円板で床を転がすようにして、前記くびれ部上に肩や背中、腰、臀部を載せた状態で仰向けに寝ころがって使用することにより、肩や背中、腰、臀部が前記くびれ部で指圧され、かつ前記把持部を手で持つことによつてくびれ部から脱落しないようにしたことを特徴とする健康器具。

## 【請求項 2】

前記複数本の脚部からなる胴部は、籐、竹、プラスチックから選ばれてなることを特徴とする請求項 1 記載の健康器具。

## 【請求項 3】

前記胴部の両端に取り付けられた円板は、竹を編んで形成されていることを特徴とする請求項 1 または 2 記載の健康器具。

## 【請求項 4】

前記胴部の両端に取り付けられた円板は、所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部を形成したことを特徴とする請求項 1 ないし 3 のいずれかに記載の健康器具。

## 【請求項 5】

前記複数本の脚部からなる胴部は、脚部に所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部を形成したことを特徴とする請求項 1 ないし 4 のいずれかに記載の健康器具。

## 【考案の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本考案は、肩や背中、腰、臀部をほぐしたり、血行を良くしたりして、肩こりや腰痛、背筋痛、臀部のこりなどを緩和するための健康器具に関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

従来、肩や背中、腰、臀部をほぐしたり、血行を良くしたりして、肩こりや腰痛、背筋痛、臀部のこりなどを緩和する際には、指圧などを行っていた。

## 【0003】

ところで、肩や背中、腰、臀部をほぐしたり、血行を良くしたりして、肩こりや腰痛、背筋痛、臀部のこりなどを緩和する際に、素人が一人で指圧などを行うのはなかなか難しいという問題があった。したがって本来は、一人で簡単に指圧効果が得られるようにすることが望ましい。

## 【0004】

そこで、以上のような課題を解決するために特開 2004 - 305232 号公報（特許文献 1 参照）のような、床に転がされ、その上に肩や背中、腰、臀部を載せた状態で仰向けに寝ころがって使用され、そして、剛性を有するとともに中実または中空の円柱状であり、その外径は軸線方向に全長にわたってほぼ同じであり、かつ外表面は凸凹をなくして滑らかにした健康器具が提案されている。

## 【先行技術文献】

## 【特許文献】

## 【0005】

【特許文献 1】特開 2004 - 305232 号公報

## 【考案の概要】

## 【考案が解決しようとする課題】

## 【0006】

しかしながら、単なる円柱状の健康器具においては、肩や背中、腰、臀部を載せた際に非常に安定感が悪く、繰返し肩や背中、腰、臀部を載せて回っていると健康器具から外れて

10

20

30

40

50

しまうという欠点があった。

本考案は、以上のような課題を解決するためのもので、肩こりや腰痛、背筋痛、臀部のこりなどを人の手による等指圧ではなく、他の手段で簡単かつ確実に直すことができる健康器具を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

すなわち本考案の健康器具は、健康器具本体を複数本の脚部からなる胴部と、該胴部の両端に取り付けられたほぼ同径の円板とで構成し、各円板には把持部を設けるとともに、胴部の外形を中心がくびれた鼓状としてあり、

前記両側の円板で床を転がすようにして、前記くびれ部上に肩や背中、腰、臀部を載せた状態で仰向けに寝ころがって使用することにより、肩や背中、腰、臀部が前記くびれ部で指圧され、かつ前記把持部を手で持つことによつてくびれ部から脱落しないようにしたことを特徴とするものである。

【0008】

また本考案の健康器具において、前記複数本の脚部からなる胴部は籐、竹またはプラスチックから選ばれてなることをも特徴とするものである。

【0009】

本考案の健康器具において、前記胴部の両端に取り付けられた円板は、竹を編んで形成されていることをも特徴とするものである。

【0010】

本考案の健康器具において、前記胴部の両端に取り付けられた円板は、所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部を形成したことをも特徴とするものである。

【0011】

本考案の健康器具において、前記複数本の脚部からなる胴部は、脚部に所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部を形成したことをも特徴とするものである。

【考案の効果】

【0012】

本考案の請求項1によれば、健康器具本体を複数本の脚部からなる胴部と、該胴部の両端に取り付けられたほぼ同径の円板とで構成し、各円板には把持部を設けるとともに、胴部の外形を中心がくびれた鼓状としてある。使用に際しては、前記両側の円板で床を転がすに際して、前記くびれ部上に肩や背中、腰、臀部を載せ、手で把持部をしっかりとつかんで仰向けに寝ころがって使用することにより、肩や背中、腰、臀部が前記くびれ部で効果的に指圧され、かつくびれ部から脱落することがない。

臀部については、くびれ部に腰を掛け、把持部を手で持って臀部をコロコロすることで疲れを取ることができる。

【0013】

本考案の請求項2によれば、前記複数本の脚部からなる胴部は籐製であるため、軽量でありながら強度的に非常に強く、かつ弾力にも優れているので、子供や老人にも使いやすく、またテレビを見ながら居間や寝室等で気軽に使用することができる。

【0014】

本考案の請求項3によれば、前記胴部の両端に取り付けられた円板は、竹を編んで形成されているので、引っ張り強度に富んでおり、縦置きにして椅子としても使用することができる。

【0015】

本考案の請求項4によれば、前記胴部の両端に取り付けられた円板は、所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部を形成したので、床面の状態の如何にかかわらず、健康器具をコロコロと回して使用することができるようになった。

【0016】

本考案の請求項5によれば、前記複数本の脚部からなる胴部は、脚部に所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部を形成したので、肩や背中、腰、臀部を載せた状態で仰向けに寝こ

10

20

30

40

50

ろがって使用する際や、座って臀部をコロコロして使用する際にも、肩や背中、腰、臀部が滑ることのない非常に使いやすい健康器具を提供することが可能となった。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図1】本考案の健康器具の実施に形態を説明する平面図である。

【図2】その側面図である。

【図3】その概略斜視図である。

【考案を実施するための形態】

【0018】

次に、本考案における健康器具の実施の形態を図1ないし図3を用いて説明する。

すなわち本考案の健康器具11は、健康器具本体を複数本の脚部12aからなる胴部12と、該胴部12の両端に取り付けられたほぼ同径の円板13、13とで構成されていて、前記胴部12の外形は中心がくびれた鼓状となっている。

したがって、前記両側の円板13、13で床を転がすようにして、くびれ部14上に肩や背中、腰、臀部を載せた状態で仰向けに寝ころがって使用することにより、肩や背中、腰、臀部が前記くびれ部14で指圧され。なお、円板13、13にはくびれ部14から脱落しないように手で持つ把持部15が設けられている。

【0019】

そして以上のように、該胴部12の両端に両側でほぼ同径の円板13を取り付け、かつ胴部12の外側をくびれ部14としてあるので、前記両側の円板13で床を転がすようにして、前記くびれ部14上に肩や背中、腰、臀部を載せた状態で仰向けに寝ころがって、あるいは座ってコロコロと使用することにより、肩や背中、腰、臀部が前記くびれ部14で効果的に指圧される。なお、前記円板13、13に設けた把持部15を手で持つことにより、くびれ部14から脱落することなく、安全にコロコロと使用することができる。

【0020】

また前記健康器具11において、前記複数本の脚部12aからなる胴部12は籐製である。

この籐(ラタン)は、東南アジアを中心に熱帯雨林地域のジャングルに自生するヤシ科の植物で、日本名で「籐(とう)」と呼ばれる、200種以上ある植物の総称である。ツル性植物で、節があり、とげを持った表皮に包まれている。その繊維は植物中最長にして最強といわれ、長さが200メートルを超えるものもあり、他の樹木にからみつき空に向かって伸びていく。およそ5年ほどで加工に適した大きさに成長する。

その生命力の強さから、通常の木材よりも丈夫で折れにくく、曲線の加工もしやすいため、細かく裂いたものを編んで籠としたり、太いものはステッキや家具のフレームなどに使用されている。

もちろん、籐に代えて竹やプラスチック等を用いて成形することにより、同種の胴部12を形成することができる。

【0021】

以上のように前記複数本の脚部12aからなる胴部12は籐製であるため、軽量でありながら強度的に非常に強く、かつ弾力にも優れているので、子供や老人にも使いやすく、またテレビを見ながら居間や寝室等で気軽にストレッチ等に使用することができる。

【0022】

次に、前記胴部12の両端に取り付けられた円板13は、竹を編んで形成されていることが望ましい。

円板13をこのように竹13aを編んで形成することにより、引っ張り強度に富んでいて、縦置きにして椅子としても難なく使用することができる。

【0023】

さらに、前記胴部12の両端に取り付けられた円板13は、所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部13bを形成してある。床面の状態の如何にかかわらず、健康器具11をコロコロと回して使用することができるようになった。

10

20

30

40

50

図 1、図 3 において、15 は円板 13 の外周部分に形成した把持部であり、この把持部 15 を手で持って健康器具 11 を肩より上に持ち上げ、前後に屈伸したり、左右に体を揺らすようにして気軽にストレッチ等に使用することができる。

【0024】

また前記複数本の脚部 12 a からなる胴部 12 は、脚部に所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部 12 b を形成してある。

このように、脚部 12 a に所定の間隔で竹を巻き付けて滑り止め部 12 b を形成したので、肩や背中、腰、臀部を載せた状態で仰向けに寝ころがって使用する際にも、前記把持部 15 を手で持つことにより、肩や背中、腰、臀部が滑ることのない非常に使いやすい健康器具 11 を提供することが可能となった。

10

【産業上の利用可能性】

【0025】

以上、本考案の実施の形態を詳述したが、本考案は、前記実施の形態に限定されるものではなく、請求の範囲に記載された本考案の要旨の範囲内で、種々の変更を行うことが可能である。本考案の変更例を下記に例示する。

(1) 胴部 12 を構成する複数本の脚部 12 a の数は適宜変更可能で、サイズ等に応じて適宜決めればよい。

(2) くびれ部 14 のアーチ径は、使用者の体格や体型等に応じて適宜決定することが可能である。

【0026】

(3) 健康器具 11 は仰向けになって使用したり、座ってお尻を載せて使用したり、腹這いで使用することも可能である。もちろん立ててスツール等として使用することもできる。

20

(4) 腰痛、肩凝りや筋肉痛などの対策、疲労回復、血行不良の改善、健康維持、スポーツ前の準備運動、および、スポーツ後のクーリング運動などに使用することが可能である。

例えば、臀部を載せてコロコロするだけでなく、両手で持ち上げて前後に屈伸したり、左右に振って使用することができる。

【符号の説明】

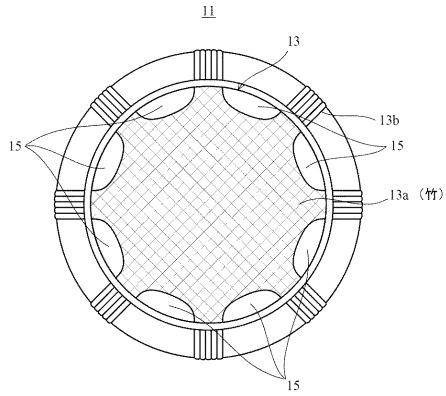
【0027】

- 11 健康器具
- 12 胴部
- 12 a 脚部
- 12 b 滑り止め部
- 13 円板
- 13 a 竹
- 13 b 滑り止め部
- 14 くびれ部
- 15 把持部

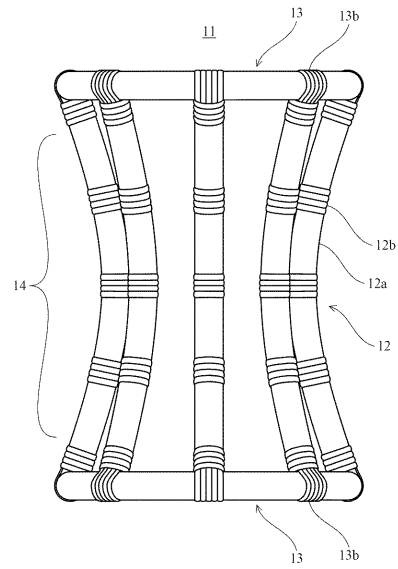
30

40

【図1】  
【図1】



【図2】  
【図2】



【図3】  
【図3】

